

路上事故・現場内事故に関するアンケートの集計結果について

(2017年度集計)

2018年10月1日
建設廃棄物協同組合
収集運搬委員会

収集運搬委員会では、路上事故並びに現場内事故に関するアンケート調査を2018年6月に実施しました。(調査期間2017年4月1日～2018年3月31日)
その結果は次のとおりです。収集運搬委員会ではこの調査を毎年実施し、各組合員で作業事故の削減を図るべく安全大会等の資料としてご活用ください。

《路上事故》

1. 車両種類

今年度の交通事故の総数は76件発生しました。(昨年は67件)
車両種類別ではコンテナ車の29件が最も多く、次いでダンプ車の26件となります。

2. 年齢別

年齢別では40歳代の37件が最も多く、次いで30歳代の18件の順となっており、昨年は50歳代27件、40歳代15件だったことから、若年化傾向にあります。

3. 経験年数

経験年数では、5年以下が最も多く全体の60%を占めており、次いで10年以下の19%と、ことらも昨年同様、経験年数が少ないドライバーの事故が多く見受けられます。

4. 事故の種類

事故の種類では接触の40件が最も多く、次いで追突事故の18件となります。

5. 事故の形態

事故の形態では物損事故が68件と最も多く次に人身+物損の8件でした。

《現場内事故》

1. 車両での事故(車種)

今年度の現場内事故の総数は53件発生しました。(昨年は59件)
車両種類別ではダンプの14件が最も多く、次いでユニックの11件の順となります。
昨年、事故件数の次点であったコンテナは3件(昨年は17件)でした。

2. 年齢別

年齢別では40歳代が24件（昨年は28件）と最も多く、次いで30代の11件の順となります。

3. 経験年数

経験年数では5年以下が最も多く、全体の48%（昨年は62%）を占めており、次いで5年から10年以下で25%でした。

4. 時間帯

時間帯別では午前10時から12時が15件と最も多かったです。

5. 事故の種類

事故の種類では、今年度も後退時の16件が最も多く、次に現場内移動中の13件、コンテナ脱着作業の10件の順となります。

6. 総評

ドライバー：年齢40歳代、経験年数では5年以下が交通事故・現場内事故共に多く、雇用時の新規教育の際、作業適正の有無について注意する必要があると感じられます。交通事故の発生要因で多い事項は、

- ・車間距離不足（渋滞時）
- ・前方・後方・側方の確認不足（特にバックミラーの死角にある障害物の未確認）
- ・廃棄物運搬中にシートのゴムが切れ廃棄物が落下する

が挙げられます。

現場内事故では、昨年同様バック移動時の接触が大半を占めており、後方・左右を十分に確認する指導が必要と感じます。

また、特殊車種特有の事故は、コンテナ車、ユニック車共に、十分な作業エリアが確保されていなかったため、現場内備品や車両に接触するケースが多くなっています。

ドライバーから作業環境の悪い現場の情報を収集し、改善を行う事が急務と考えます。

軽微な事故ながら、現場内事故は、昨年同様多く発生しています。

十分な教育・指導を徹底し事故削減に努めて頂くと共に、社内での現場パトロールを実施し、危険の芽を摘み取る活動を積極的に行って頂きたいと思えます。